

# 伝えずにおれない「喜びの知らせ」

ルーテル清水教会 明比 輝代彦

「清水市民クリスマス」は、2008年12月13日(土)午後2時から開催されることが4月17日の第1回実行委員会で決定されました。今年で「第23回」を数えることになり。当日、村上委員長から配布された資料によると、1964年12月11日(金)午後6時30分から、清水市公会堂で、清水市キリスト教連合会主催による「市民クリスマス」が開催されています。「音楽礼拝と小音楽会の夕」と副題が書かれています。「清水市民クリスマス」が23回ということは、その後の市内キリスト教会の歩みの中で、清水市キリスト教連合会が解散され、この「市民クリスマス」を市内教会の中から「実行委員会」を組織して、開催する方向に変わってきた歴史があるようです。

市民クリスマス開催方法がどうであれ、クリスマスの喜びに変化はありません。神様が独り子イエスを、この世にお遣わしくださった！この素晴らしい真実の愛のメッセージは、時代がどう移り変わろうが、永遠に不変の「喜びの知らせ」です。

ヨハネ福音書1章9節は、こう伝えます。

「その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。」

現代社会は、まるで先の見えない暗闇の中に閉じ込められているかのようです。暗闇では、自分がどこにいて、これからどこへ行くのか、その行き先さえ分からない状態です。クリスマスのできごと—御子イエスの誕生—は、そんな暗闇に閉ざされている私たちに明るい真実の光を照らし、救いの道へと導いてくれます。

真実の喜びを体験すると、私たちはその喜びを伝えずにおれなくなります。クリスマスの

喜びを一人でも多くの方々と分かち合いましょう！家族や友人や、まだ教会においてに なったことのない方々を、心から歓迎いたしましょう！今年の「市民クリスマス」には、どなたをご招待するか、祈りつつ決めましょう！会場一杯の方々と共に、クリスマスの賛美を歌いメッセージを聴き、喜びを共にいたしましょう！

星はおのおの持ち場で喜びにあふれて輝き、その方が命ずると、「ここにいます」と答え、喜々として、自分の造り主のために光を放つ。

(旧約聖書続編バルク書3章34-35節)

# 「神様からの贈り物」

救世軍清水小隊付 准尉 加藤 和子

清水に遣わされまして早くも二ヶ月が過ぎました。この地で主のご用に励む事ができますことを感謝しています。

前回の巻頭言は「み言葉が開かれるクリスマスを」でした。私達はクリスマスの意味をよく理解しています。私自身、主イエス様のご降誕から復活までの聖書を読み直す時、救われた喜びに感謝の思いが一杯になります。しかし、私たちの身近な人、友人で、救い主イエス様のことを知らない人たちにとってクリスマスをどのように捉えているのでしょうか。

お酒やケーキ、豪華な食事、パーティー、コンサート等どれを取ってみてもクリスマスの本当の意味から随分かけ離れてます。クリスマス＝主イエス様のご降誕は、私達に神様が与えてくださった「世界で最大の贈り物」です。この「世界で最大の贈り物」がすべての人に与えられていることをお伝えするために、市民クリスマスが開かれます。しかし、これが一過性のイベントに終わらないようにと、今から祈りと準備を重ねています。

ポスターを目にし、チラシを手にして「神様からの贈り物」を受け取る人が一人でも多くおこされることを心から願っています。

「主人が帰ってきたとき、言われたとおりになっているのをみられる僕は幸いである。」(ルカ12:43)とみ言葉にあります。主がお出でになる時まで、私たちは「神様のすばらしい贈り物」を手渡すことを続けていきましょう。

## ひとこと

伝える(継承する)ということ。旧約聖書の歴史からみてみましょう。出エジプト記十三:十四に、こんながあります。

後になつて、あなたの子が

「これはどんな意味ですか」と問うならば、これに言わなければならぬ。」「主が強い手をもつて、われわれをエジプトから、奴隷の家から導き出された。・・・。」(口語訳)がそのみ言葉です。けれども、しきたりは変わり、意味のわからなくなったものもたくさんあります。「決まったことだから」とか「そうすることになっているのだから」と私おたちは言ってはならないでしょう。理由なしの決めごとを聖書の中に見出すことはできないことに気がきましょう。同じみ言葉は、申命記六:二〇にも出てきます。何故クリスマス？

問いも答えも、失いたくない会話です。(村上)